

学習まんが

国分寺・府中 の歴史



目次

学習まんが こくぶん 上 国分寺・府中の歴史…………… 3

〈コラム〉解説 むさしのくに 武蔵国の国府と国分寺…………… 26

登場人物紹介

けんじ
健二

明るく元気、好奇心いっばいの小学5年生。タイムマシンを発明した武内博士の孫。



ゆか
由香

中学2年生。武内博士に科学の才能を見出され、勉強するため研究所に通っている。



たかはらのむさしのすけゆきまさ
高原武蔵介行正

なら 奈良時代の武蔵国の国司。
子孫の顔もそっくり。



たけうち
武内博士

府中市に研究所を持つ博士。タイムマシンの研究をしている。





でも……って
昔のお役所の跡
ですよ？

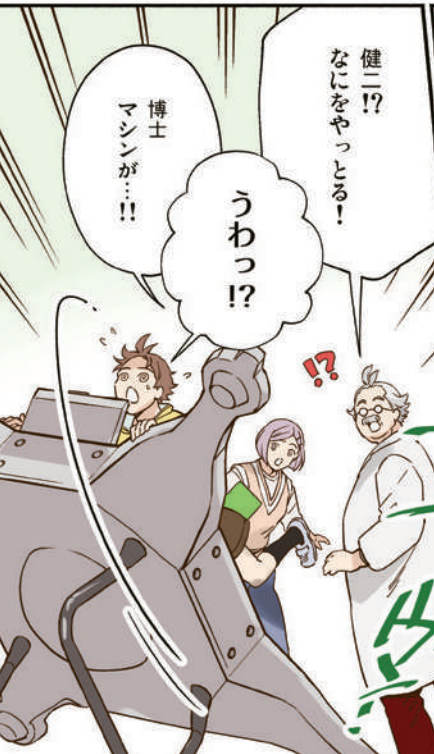
わしの
タイムマシンは
「人の思いの力」が
動力なんじゃ

昔から人が
たくさんいた
場所が良くてな



はい！博士
はかせ

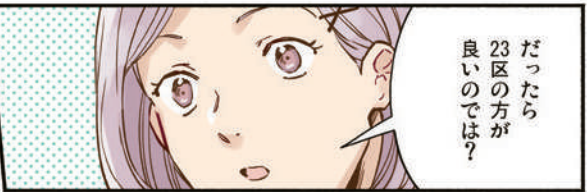
よしっ由香くん
タイムマシンの
実験を始めるぞ



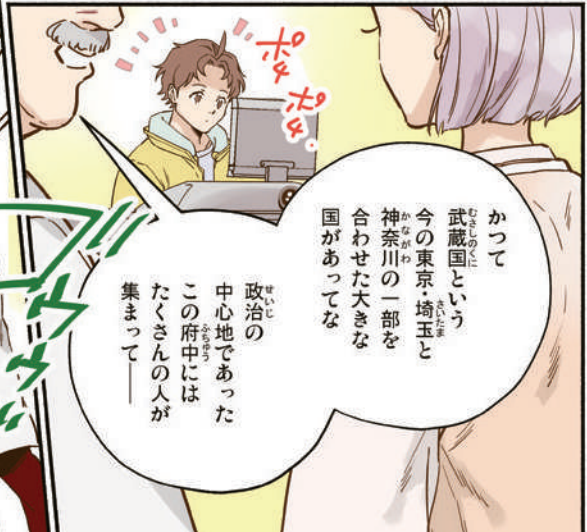
健二!?
なにをやっとる!

博士
マシンが……!!

うわっ!?

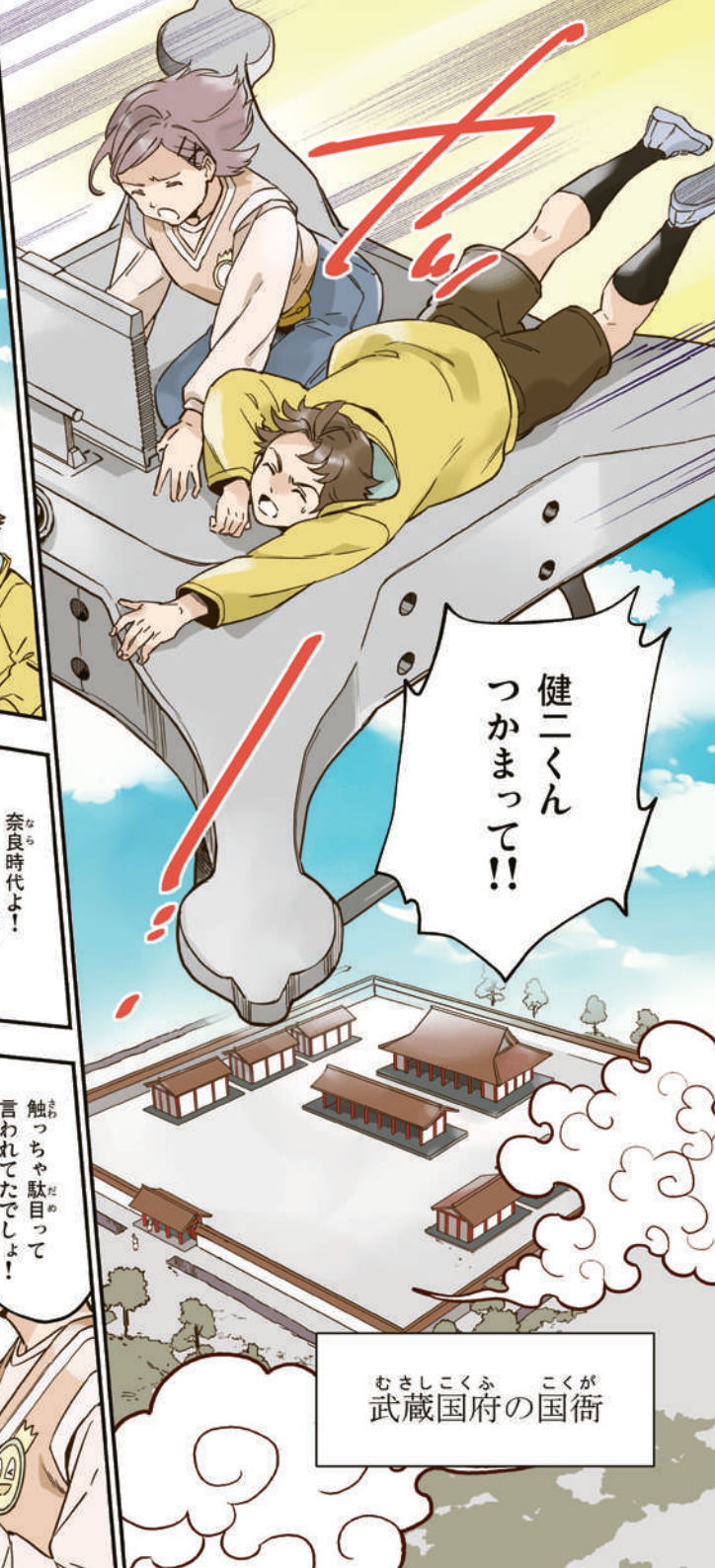


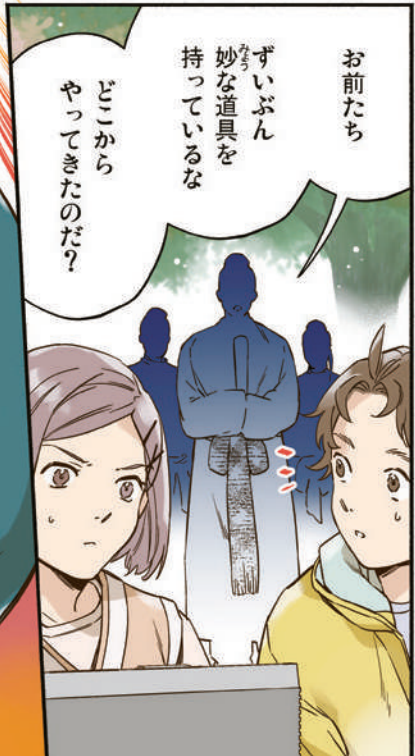
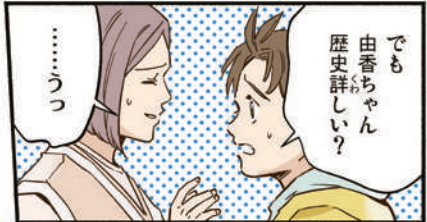
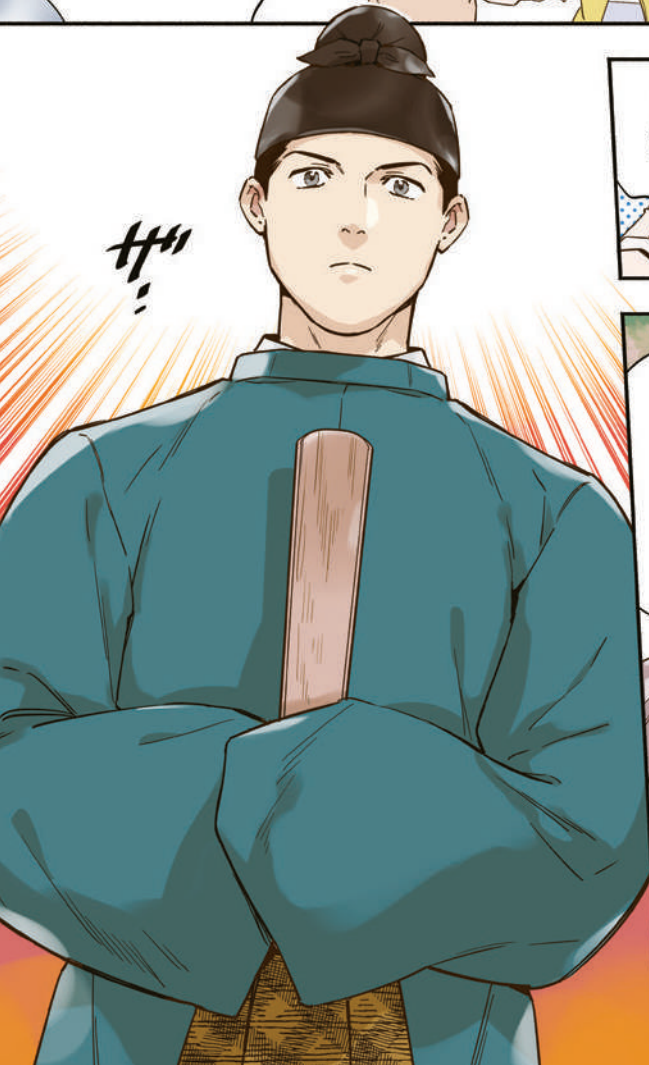
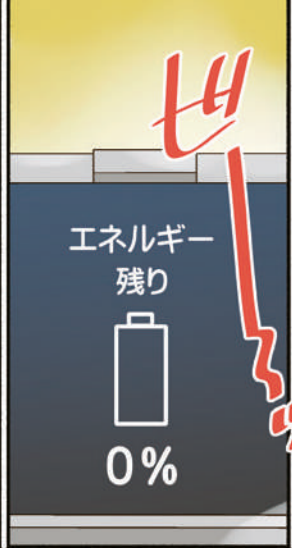
だったら
23区の方が
良いのでは?



かつて
武蔵国という
今の東京・埼玉と
神奈川の一部を
合わせた大きな
国があったな

政治の
中心地であった
この府中には
たくさんの方が
集まって――







知らんのか？
ここで2番目に
えらいと
思ってくれ

すけ？



おじさん
誰？

はっはっは
元気が
いいな！

私は
高原武蔵介行正と
いう者だ

この
武蔵国府の介
だよ



見たこともない
鉄のかたまりに
その服……

御仏の
使いか？

ふーむ



わ…私たちは
遠い未来から
きました

元の時代へ
帰るために
力を貸して
もらえませんか？



ならば
お手伝いせねば
なるまい

高原様！

正殿の前に
いすわられても
困るではないか

行
よじ

ありがとう
ございます！

おじさんに
このこと
いろいろ教えて
欲しいんだ！

Key!

おおっ便利だな
ここが武蔵国府の
国衛だ

広いんですね！

よからう！
ここは
武蔵国の国府
役人たちが
集まりこの国を
治めておる



今でいう
都庁かしら？



うむ
広大な国衛で
昔から栄えて
いたのだ
その証拠もある



見ろあの
不思議な形を

この辺りの
有力者
だった方の
墓だそうだ

国中を
見てまわっても
あの形のもの
はほとんどない



むさしふちゆうくまのじんじやくふん
武蔵府中熊野神社古墳



のちに
国府がおかれた
この場所には
都からも
海の方こうの
大陸からも
人が来ていたから

中には
墓の作り方を
教えてくれた人も
いたのだろう

しかし
問題もあった



武蔵国府は
都につながる
東山道からは
離れた場所に
あった

そこで
東山道武蔵路という
立派な道で
つないだのだ!

これで
いよいよ
たくさんの方が
集まる場所と
なったわけだ



みな 田んぼや畑を
耕して食べ物を作り
つつましく暮らしている

布を作ったり
それを染めるための
草花を育てたりする
者も多いな

そのような人々を
束ねているのが
この武蔵国府だ



だから
おっきい役所も
できたんだね!

武蔵国の人
みんな暮らして
しているのですか?



税を納めに
くる者もあるし
祈りの儀式を
行うために
くる者もある

市だって
開かれているし
役人の子らが学ぶ
学校もある！
それに兵もいるぞ

金属のものや布を
作っているから
それらを求めて
来る者もある



国府にいるのは
役所の人だけ？

いいや

武蔵国中の人が
集まってくる！



たくさんの方が
住んでいるん
です

高原のおじさんは
この人なの？



時期にもよるが
国府が開かれた頃には
2500人くらいは
いたのではないかな

生まれは
平城京の都だ

国司たちは皆
天皇のご命令で
自分の任地へ行く

みんな都から？

そつとも

長い旅にはなるが
武蔵国は栄えて
いるから
喜んでくる者も
多いのだよ

なによりも
人民の暮らしを
少しでも
良くしたいと
思うからこそ

遠い都から
やって
来るのだ

武蔵国の人たちは
国司の皆さんを
喜んでむかえて
くれるんでしょうか？

うむ：武蔵国を
より良くするためには
地元の郡の有力者たちの
協力が欠かせんのだ

彼らが郡司という
役職につき国司のもとで
働いてもらえるように
すること

これもわれわれの
大事な仕事の
ひとつなんだよ

大変なんだあ

立派な使命だ
大変などと言って
おられんさ

あつ
タイムマシンが
この先へ移動する
みたい!

乗ろう!

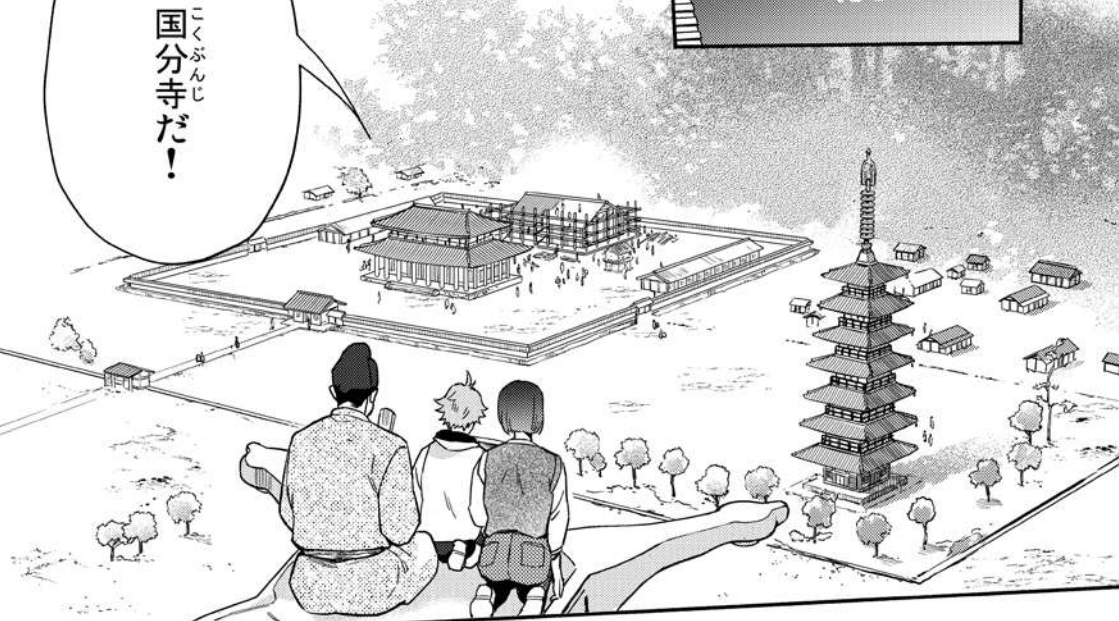
おお
まるで馬だな

でっかい!
なにこれ!?

これは私たち
武蔵国司が建設を
命じられている

こくぶんじ
国分寺だ!

MOVE
前進



正式には
男性のお坊さんがおる
国分寺を
金光明四天王護国之寺
女性のお坊さんがおる
国分尼寺を
法華滅罪之寺と呼ぶが

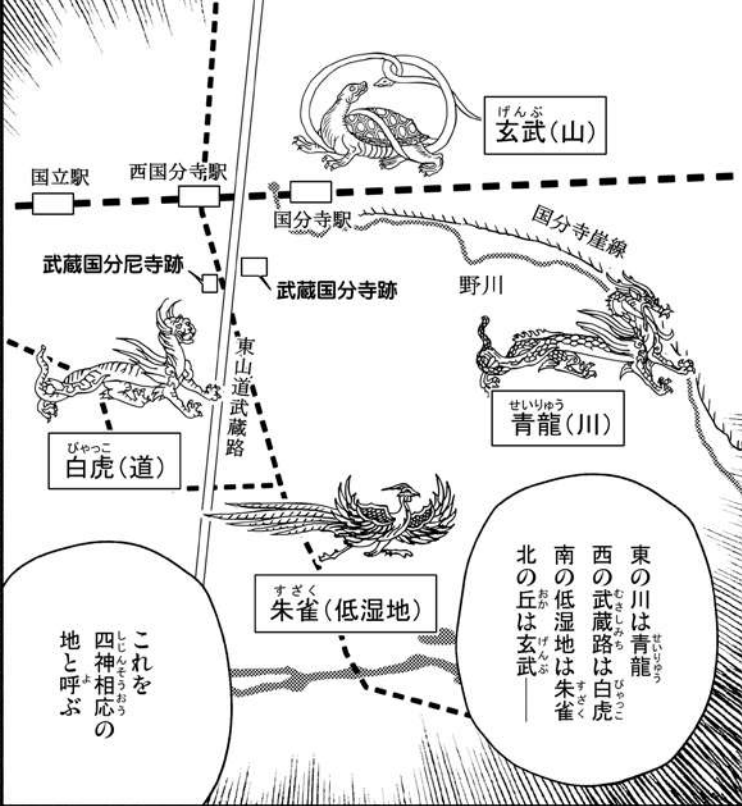
これらも
国府とやらんで
日本で最も広くなる
予定なのだよ

しかもこは
国分寺と国分尼寺を
建てるのに
ふさわしい場所だ



かつけえく！
 そついえは
 国分寺って
 地名じゃないの？

このお寺があったから
 後に地名になったのね
 でも国分尼寺は
 聞いたことがないわ



聖武天皇の
 ご命令なのだ

天災や戦
 はやり病
 ききんが
 あいつぐなか

民を救って
 くださるのは
 御仏しかいない

だから日本国中に
 国分寺と国分尼寺を
 また都には
 大きな大仏を
 つくるように…とな

奈良東大寺の
 大仏ですわね！

しょうむてんのう
 聖武天皇





お主らを見る限り
未来はこの時代と
全く違うあり方を
しているのだろう



うん!

うむ
どうだ?
自分の目で
見て回っては



しかし
御仏みほとけを信じる心が
なくなってしまうとは
思えない

いつの時代も
人々には
信じるものが
必要なのだ



^^^!



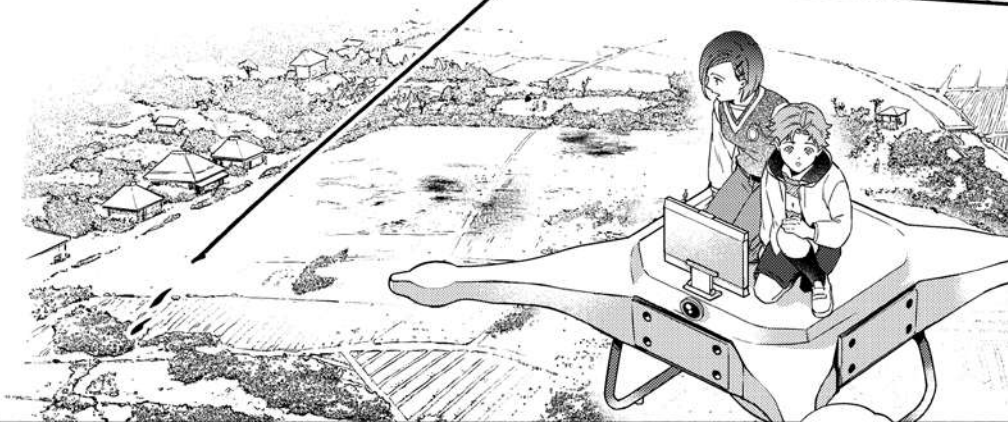
健二どの!!
何をなさる!!?

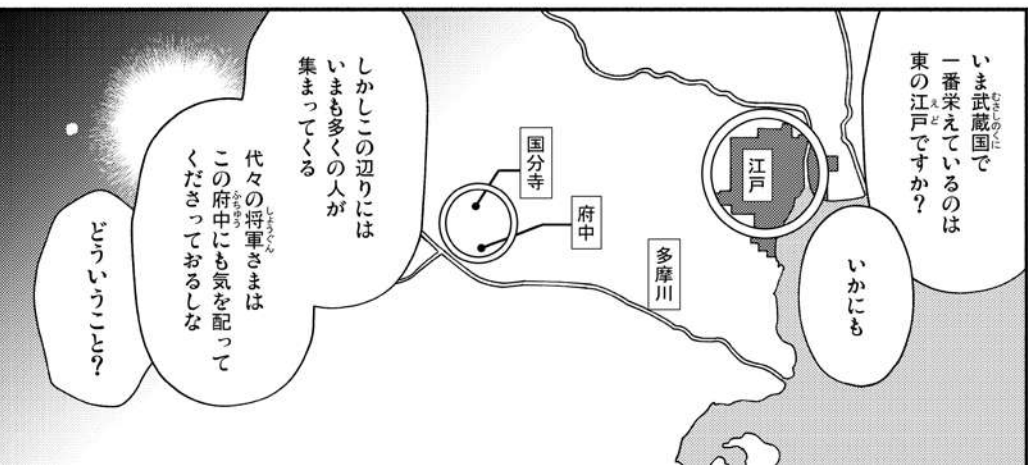
健二くん?



信じるもの……







初代將軍家康さまは
三河・遠江・駿河を
治める大名だった

豊臣秀吉から
関東をもらい
江戸を本拠地に
なされたわけだが

府中入りの折りには
国司のやり方にならない
六所宮にも
参られたのだ

へー！

昔のしきたりや
大事にすることで
もともと関東に
いた人の気持ちを
尊重してくださった

このケヤキ並木を
整備して
くださったのも
家康さまだ

立派な神社
ですね！

お主らは
前のときには
来なかった
ようだがな

この六所宮は
武蔵国の総社なのだ
もちろん
立派であるとも！

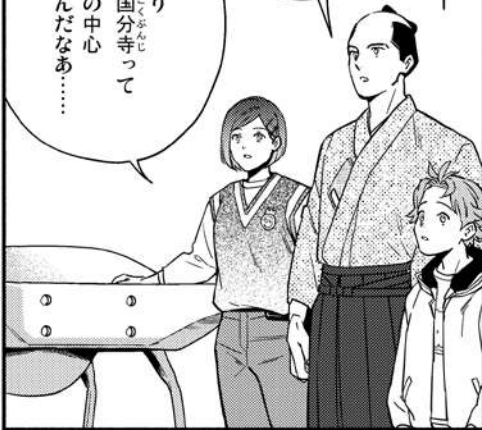
ろくしょくごう おおくにたまじんじや
六所宮(大國魂神社)

そーじや？

武蔵国中の神様を
まとめて祀っている
ということだな

武蔵国の人
みんなここに
お祈りに
くるんですね

やっぱり
府中や国分寺って
武蔵国の中心
だったんだなあ……



將軍さまは
六所宮と
国分寺薬師堂に
土地を与え

守進 六百百
武蔵国分寺
五百年
石山寺に守進は
守進は守進は
守進は守進は
守進は守進は

武蔵国分寺
守進は守進は
守進は守進は
守進は守進は
守進は守進は
守進は守進は

その証明も
くださったのだ



え 国分寺って
まだあるの？

当たり前だ
これを見ろ

なにこれ？

今の国分寺が
どんな歴史をたどり
どんな物語を
伝えているかを
紹介しているものだ

とても人気
があるのだぞ



いおうざんえんぎ
医王山縁起





実は国分寺は鎌倉幕府がほろんだ時戦いに巻きこまれて焼けてしまったのだ

その時の大将だった新田義貞の助けがあつて国分寺の薬師様のお堂を建て直すことができたとも言われている

ぶばいがわらのかつせん 分倍河原合戦(1333年)

今も残っているのだよ



うむ話を聞く限り

お主らの時代まで国分寺は残っておるようだ



住んでいる人たちが昔から国分寺を大事にしてきたんですね

じゃなきゃこんな読み物もないもんね

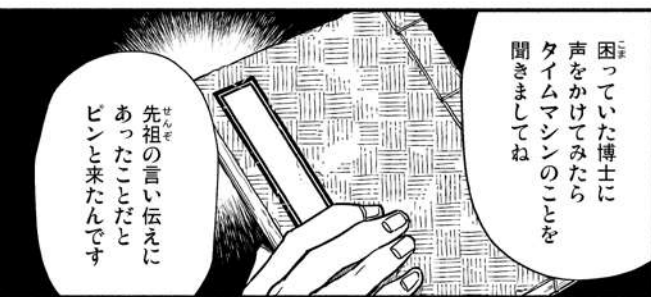


早く乗りなされ達者でな!



エネルギーがたまつた!!

わしもそのことがとても嬉しいよ



困っていた博士に声をかけてみたらタイムマシンのことを聞きましたね



そうじゃ健二

健二祭上!



これに覚えはあるかの？

それ僕が書いた!

まさか残ってるなんて

これも先祖が大切に残していたんだ博士に信じてもらうために持ってきたんだよ

健二のいたずらには困ったもんじゃが

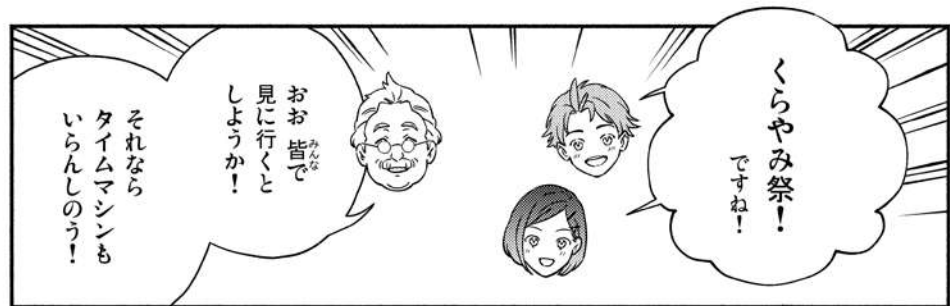
実験データもたっぷり取れたしのう

へへ
タイム
トラベルは
大成功だね!

もう反省しなさい!

せっかくですから由香さん健二くんもうちょっとだけ歴史の勉強を……

ちょうど今2人が見てきた大きなお祭りをやっていますよね?



くらやみ祭は
大國魂神社……
江戸時代までは
六所宮と呼ばれていた
神社のお祭りだね

4月30日から
5月6日までの
1週間のなかで
いろいろな行事を
やるんだ

どうして
くらやみ祭って
いうの？

むかしは
神輿を出すときに
まちの明かりを
全部消して真っ暗に
していたからだよ
そうだよ

神秘的ですね……

おさきばらいだいこ
御先払太鼓

このお祭りは
2人が見てきた

武蔵国府の時代の
お祭りをルーツに
しているんだ

みこしとぎよ
神輿渡御

うわー！

すごいっ

府中や国分寺に
住む人や
日本という国が
変わっても

お祭りは
残り続けて
きたんですね

お祭り
だけじゃないよ
府中や
国分寺という
市の名前も

昔からの思いが
受け継がれてきた
からこそ

1300年の時をこえて
今も使われているんだ

歴史って
もうずっと前の
僕たちに関係の
ないことだと
思ってたけど

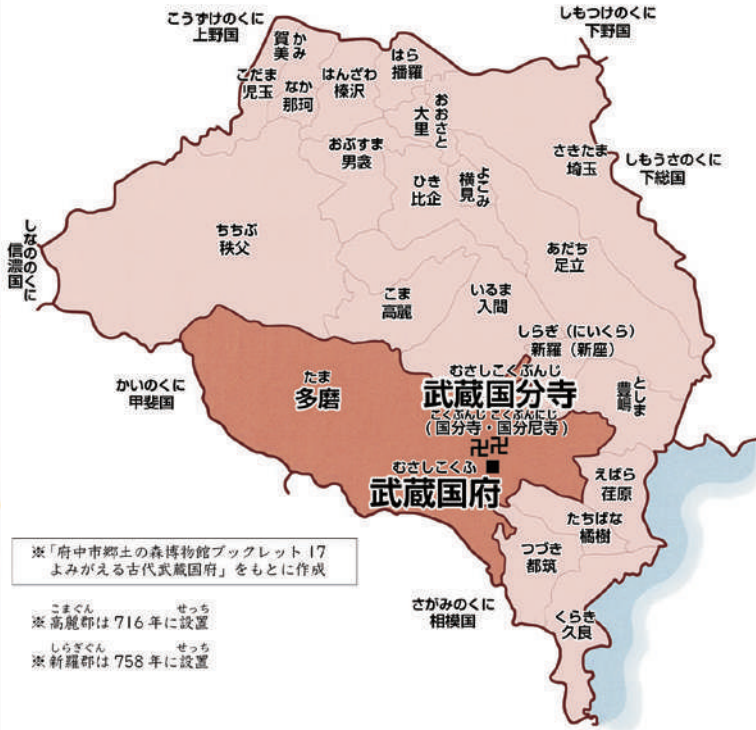
今につながって
いるんだね！

END

むさしのくに ぐん 武蔵国の郡と全体地図

解説

武蔵国の国府と国分寺



武蔵国の成り立ち

武蔵国は、今でいう東京都、埼玉県、そして神奈川県横浜市と川崎市の大部分を含む、とても大きな地域でした。「国」といっても、令制国といって、日本全体を60数か国に分けたものです。今の「都道府県」に似ているこの枠組みができたのは、飛鳥時代から奈良時代にかけてのこと（7～8世紀）。当時栄えていた中国の唐から律令（法律）を学んだ日本は、この新しい国のしくみに基づいて日本を区分けしました。その一つが武蔵国だったのです。奈良時代はじめの武蔵国には今の「市町村」にあたる「郡」が19郡ありましたが、その後、高麗郡と新羅郡が設置され、21郡になりました。

国府・国司とは

国府は国の中心になる場所のことです。たくさんの人が集まってきますし、また国の中のあちこちへ出かける必要がありますから、交通にもっとも便利な場所につくられました。武蔵国では府中がそうだったのです。その国府で国を治めるために都からやってきたのが国司という役人たち。四つの階級に分かれていて、守、介、掾、目と呼びます。とはいえ、広い国を治めるには彼らだけでは足りず、地元の有力者たちの協力が必要でした。彼らは郡司という役人になって国を支えました。

むさしこくふ・こくぶんじ とうさんどうむさしみち 武蔵国府・国分寺と東山道武蔵路の位置関係図



こくが 国衛地区の昔と今

国府のさらにまん中に国衛という場所がありました。今でいえば、都庁の建物にあたる役所です。国を治めるために必要な建物や施設がいろいろとあったほか、国司たちが政治や儀式を行う場所だった国庁もここにあったのです。

この国衛の一部が、大國魂神社の境内の中にあつたことがわかっています。今ではその場所は「武蔵国府跡（国衛地区）」として観光地になっていて、朱色の柱が当時を再現するかたちで立てられています。大きな鏡に柱が映りこんで、当時の建物の大きさがわかるようになっています。

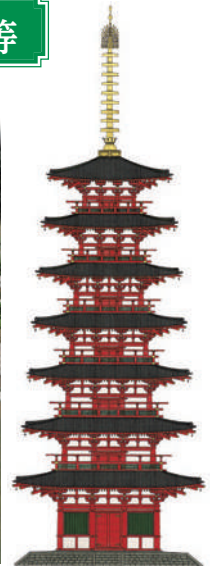
また、国衛地区の近くには国司館地区があります。そこにはかつて国司がいた国司館があり、江戸時代には徳川家康が府中御殿を建てましたが、火事で燃えてしまいました。

とうさんどうむさしみち 東山道武蔵路とは

律令を取り入れた日本では、令制国だけでなく「五畿七道」という地域でも日本を分けていました。そのうちの一つが東山道で、最初武蔵国はこの東山道に含まれていました。のちに東海道へ移ります。また、国は都から各国の国府へつながるように公式の道をつくったのですが、その道も七道と同じ名前と呼ばれました。しかし、東山道は信濃国（今の長野県）、上野国（今の群馬県）から東へ延び、武蔵国の北を通り過ぎてしまいます。そこで、途中で分かれて府中へ向かう道がつけられました。それが東山道武蔵路です。

発掘により、東山道武蔵路は幅 12メートルの立派な道だったことがわかっています。また、間に休んだり馬をとりかえたりするための駅が5つあったらしいのですが、詳しくは分かっていません。

むさしこくぶんじすいていふくげんもけい しちじゅうのとうふくげん
武蔵国分寺推定復元模型・七重塔復元図等



<p>こんどう ぶつどう 金堂…仏像を置く場所</p> <p>きょうぞう 経蔵…お経をしまっておく場所</p> <p>こうどう しゆぎょう 講堂…修行やお経を読むための場所</p> <p>しちじゅうのとう 七重塔…国を守るお経を納めた高い塔</p>	<p>そうぼう そうりょ 僧坊…僧侶が生活するための場所</p> <p>ちゆうもん こくぶんじ 中門…国分寺の中心とのさかいにある門</p> <p>しゅうろう ざいれい 鐘楼…時間や儀礼を知らせる鐘を鳴らす場所</p> <p>こうじいん ほっぽうたてもの そうりょ かんたく こうじ 講師院 (北方建物)…僧侶を監督する講師のいる場所</p>
--	---

国分寺建立の背景

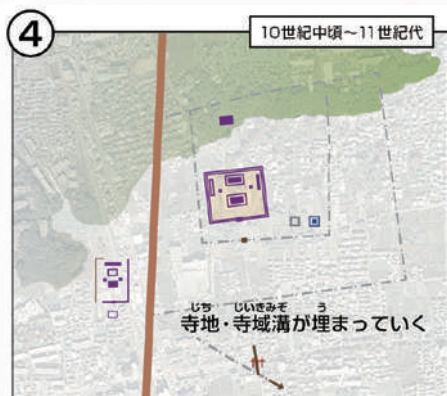
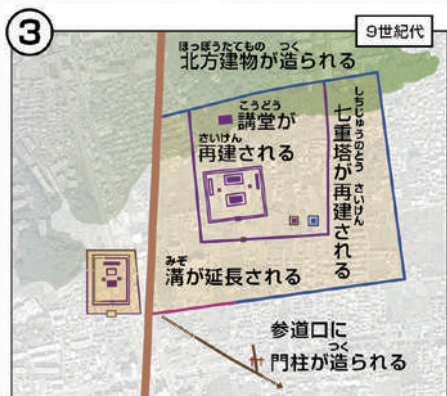
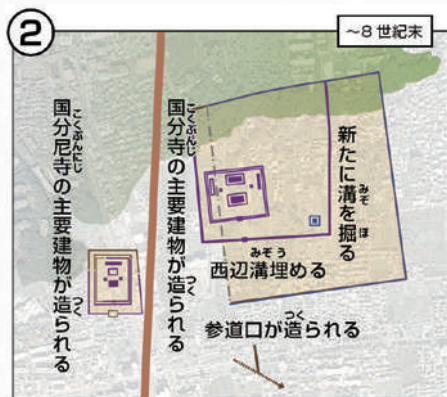
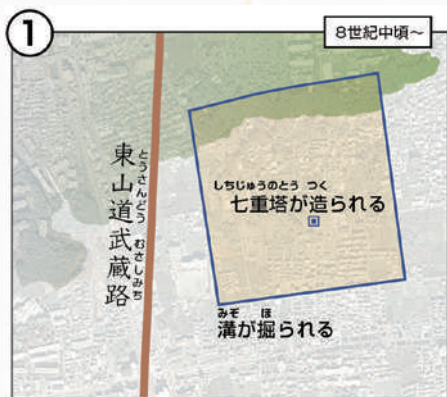
国分寺と国分尼寺は、奈良時代に聖武天皇が全国につくらせたお寺です。このころ、日本では良くないことが立て続きに起きて、人々を不安にさせていました。天災、ききん、流行病などです。これらは庶民を悩ませましたが、問題はそれだけではありません。天皇と有力者たちは、当時の東北地方にいた蝦夷とよばれる人々にあやしい動きが見られたり、朝鮮半島の新羅との関係が悪化して、日本に攻めてくるのではといった問題にも悩まされていました。一方で権力争いもはげしく、740年には九州で藤原広嗣の乱が起きています。

そこで聖武天皇は仏教にすがったのです。もともと、人間にはどうしようもないききんや流行病などは仏の力で解決してもらおうという考え方がありました。「鎮護国家」です。それまでも都などでは仏教をさかんにして国を守ろうとしたのですが、各地にお寺を建てることでより強く国を守ろうと天皇は考えたのです。

国分寺建立の詔

建立とは何かを建てることで、詔とは天皇の命令およびそれを書いた文章のことです。ですから、国分寺建立の詔とは「国分寺を建てなさい」という命令のことになります。741年に出されたこの詔の中で、天皇は「国くに七重塔を建て、『最勝王経』と『法華経』を書き写しなさい」「金光明四天王護国之寺(国分寺)と法華滅罪之寺(国分尼寺)を建てなさい」と命令したのです。

むさしこくぶんじ へんせん 武蔵国分寺の変遷



むさしこくぶんじ へんせん 武蔵国分寺の変遷

741年の国分寺建立の詔をうけて創建がはじまった武蔵国分寺は、金堂や講堂など主な建物が757年ごろにはできあがり、765年くらいまでには工事全体も終わっていたようです(図②)。その後、区画を西に向かって広げたり、七重塔が雷で燃えてしまったので再建したり、全体を改修しながら国分寺は栄えていきました(図③)。しかし、10世紀中ごろから11世紀の終わりごろにかけては国分寺というしくみそのものがおとろえ、寺の敷地内に庶民の建物が建てられていったようです(図④)。

し じん そう お う 四神相応とは？

中国で信仰されていた神に、4つの方角を守る「四神」がいます。東を守る青龍(川)、西を守る白虎(道)、南を守る朱雀(低湿地)、北を守る玄武(高地)です。周囲にこの四神が象徴する地形がある場所は「四神相応の地」と呼ばれ、大変に縁起が良いと考えられていました。国分寺は「良い場所を選んで建てなさい」という聖武天皇の命令により、武蔵国分寺もまた四神相応の地に建てられました(マンガP10参照)。なお、平安京や江戸も四神相応の地につくられたとされています。



国分寺・府中の魅力がいっぱい！
観光アプリ「ぶらり国・府」



国分寺・府中の歴史・文化・自然を楽しめるおすすめ観光スポットの紹介や、地域の豆知識など両市を満喫できるコンテンツが盛りだくさん！
ぜひダウンロードしてみてください♪

「3D AR」でタイムトラベル

当時この地域にあった、武蔵国分寺の「七重塔」と、武蔵国府の「国庁」を3Dで再現！スマホをかざすと、実際にそこにあるかのように見えます。



3D AR
国庁



3D AR
七重塔



ぶらり国・府

QRコードからアクセスして、ダウンロードしよう！



ふるさと府中歴史館



📍府中市宮町3-1
☎042-335-4393 (府中市ふるさと文化財課)

武蔵国府跡の中にある、府中の歴史を学べる施設。武蔵国府跡の発掘調査やケヤキ並木の歴史などについて、分かりやすく展示しています。



武蔵国分寺跡資料館



📍国分寺市西元町1-13-10(おたかの道湧水園内)
☎042-323-4103 (武蔵国分寺跡資料館)

見る・学ぶ・訪ねるがコンセプトの体験型資料館。FreeWi-Fiの利用や文化財関係図書の購入もできます。



※「おたかの道湧水園」への入園料が必要
(一般 100円 / 中学生以下無料)

武蔵国府跡 国衙地区



📍府中市宮町2-5
☎042-335-4393 (府中市ふるさと文化財課)

武蔵国の国府跡、国指定史跡。国府の中心にあった役所の建物の柱を再現しています。



学習まんが
国分寺・府中の歴史

2023年 3月発行

発行・監修：国分寺・府中観光振興連絡協議会

協力：国分寺市教育委員会／府中市教育委員会

原作・コラム：榎本事務所 漫画：芳井アキ

連絡先：国分寺事務局 (こくぶんじ観光まちづくり協会事務局内)

☎042-325-0111 (内線 393)

府中事務局 (府中市役所 観光プロモーション課内)

☎042-335-4095